

# ビジネス支援開始から 5 年 業界新聞を中心とした新聞室の現状

藤井 兼芳・前野 貞子（中之島図書館）

## 1 運営、収集の経過

平成 8 年の中央図書館開館にともない、府立両図書館における中之島図書館の運営での位置づけは、大阪資料・近世和漢書のセンター、公共図書館としての基本的なサービス提供、地域文化の活動センターとされた。その後、移管による資料減少、購入予算の減少で、幅広い一般的な資料の収集と提供は困難になってきた。そこで、府立図書館としての役割の見直し、業務の見直しで提供資料群の変更を計画した。ビジネス支援と大阪資料・古典籍に特化した図書館サービスの運営である。これは、利用者アンケート、大阪府の政策とも一致した結果でもある。

一般資料からビジネス支援への変更、特色のある資料群に再編成のため、参考資料購入等の臨時的な経費については措置されたが、継続的な資料費増額は財政難の折、望む事はできなかった。

お金をかけずに、従来の総合図書館(全分野)から、分野を特化した図書館への位置づけ、収集方針、運営を変更するための様々な検討、作業がなされた。新聞室もこれにあわせ、方針の変更、作業を実施した、その中でも特徴的なものが以下の 4 点である。

### その 1 スポーツ新聞 3 紙の購入を中止。

ビジネス支援サービスを開始するにあたって、それまで継続的に購入してきた資料のうち何をきるか、特に雑誌、新聞については館内でも議論のあるところであった。しかし、限られた資料費のなかで苦渋の決断をしていった。

購入中止の利用者からの苦情は約半年間続いたあと沈静化した。

### その 2 五大紙を閲覧用と保存用の 2 部購入していたのを閲覧用のみとした。

予算の関係から複数部購入をあきらめ、閲覧用を保存する運用に変更した。

閲覧時の切りとり等で、再配達、自宅持参などで差し替えるケースも生じている。

五大紙のうち朝日、読売、日本経済新聞についてはオンラインデータベースを契約、デジタル情報室で平成 16 年度ビジネス支援開始時から利用者に提供をおこなっている。(平成 18 年度から毎日新聞を追加) オンラインデータベースは利用者が直接操作利用する運用形態をビジネス支援開始時より行っている。

### その 3 業界新聞の寄贈依頼

平成 15 年度時点で新聞室の業界新聞は約 30 タイトルであった。

業界新聞については、それまで積極的に寄贈依頼したことがなかったが、ビジネス支援を行える特長ある資料群を形づくらねばの思いと、予算が無いことの板ばさみの中、寄贈依頼作業を開始した。

「活用自在日本の新聞データブック」「専門新聞要覧」、各社のホームページを参考に FAX で寄贈依頼状 123 件を送付、これに対し 71 タイトルが寄贈され、寄贈不可で分野的にどうしても揃えたい 3 タイトルを購入、従来から受け入れのタイトル数と合わせて約 100 タイトルとなり、平成 16 年度ビジネス支援サービスを開始した。

業界新聞は購読料が高額なものもあり、寄贈依頼を行っても応えていただくのは難しいのではと予想していたが、嬉しい誤算だった。

#### その4 正規職員から嘱託職員への変更

ビジネス支援開始に併せ、貸返カウンターから登録相談業務を切り離しカウンター増設、デジタル情報室カウンター新設等で、員数の捻出が必要となり、新聞室は嘱託職員中心の運営で試行錯誤していくこととなった。レファレンス、資料購入、寄贈依頼等は職員がそのまま継続し、利用相談のケースによっては相談カウンター等に、利用者を案内する運営にし、新聞室では日常作業（新聞綴じ込み、出納、所蔵案内など）を行う事とした。

嘱託職員だけでは、食事交替、休暇など時間数が不足するので、ビジネス支援課全職員が不足時間を補う形でローテーションを現在も行っている。

郵送による調査相談は趣味的なもの、調査に時間を要するもの、ビジネス支援サービスとは異なるものなど、作業量との兼ね合いでお断りするケースも出てきている。

ビジネス開始から専属の嘱託職員3名の数は変わっていないが、メンバーも幾人か変わり、作業内容については寄贈依頼候補の選択、所蔵資料のデータベース化、資料内容確認など変更追加してきている。

嘱託職員3名のうち当初、有資格者（司書）1名、現在は2名。

平成16年度に30件、17年度に、24件の業界新聞の寄贈を依頼し、18年度には、ビジネス資料としてよく利用される資料「業種別審査事典」を参考に、各業界の団体のホームページを見て、図書・雑誌と共に業界新聞の寄贈依頼作業を行った。平成19年度には、「日本新聞便覧」を参考にし、また、日々寄せられる利用者の声を基に、180件の業界新聞を寄贈依頼し、88タイトルが送られてきた。（この19年度寄贈依頼時には受入中の新聞一覧をつけて寄贈依頼した。同業種の会社には効果的？だった。）19年度末に継続寄贈をうけている業界新聞の年間購読料を金額試算すると507万円（250タイトル223社）であった。20年度に入り、4月には『雑誌新聞総かたろぐ』を参考に、86件の寄贈依頼、7月には国立国会図書館のホームページ「テーマ別調べ案内・産業情報ガイド」で業界別に紹介された専門紙の内、当館未所蔵分40件を寄贈依頼した。

平成20年11月末での業界新聞は317タイトルである。

新聞室継続資料のほとんどが寄贈であり業界新聞は改廃も多く、タイトル数については変動がある。

## 2 排架方法と新聞室内での配置

五大紙については、当日分を立見の閲覧台で、翌日、棹に綴じなおし、その後、1ヶ月ごと厚表紙に綴じ直している。業界新聞も一部、棹綴じあり、これも1ヶ月ごと厚表紙に綴じ直し。各新聞毎に厚表紙を付けて背文字を書き、本と同じように立てて排架しているが、初めての利用者、専門図書室・他府県図書館などの見学者から、「これは閲覧しやすいですね」とお褒めの言葉をいただく事もある。業界新聞はタブロイド版とブランクセット版、冊子版に分け、それぞれを50音順に並べている。バックナンバーで、新聞室に入りきらない資料は、一階にある新聞書庫に入れ、請求ごとに出納している。また、新聞の綴じ込みは日刊紙については朝夕、業界新聞については郵送配達され次第（一日に2回程度郵送配達される）行っている。郵送配達は毎日50紙程度あって、1人1時間

程度の作業量となっている。

新聞室は現在 3 室と書庫 2 室があり

新聞室

業界新聞、五大紙のバックナンバーと縮刷版（朝日、毎日、日経）、新聞ダイジェスト等

新聞室

新聞（朝日、毎日等）マイクロフィルムと有価証券報告書のマイクロフィルム、  
新聞集成明治編年史等

新聞室

今日の五大紙（立見の閲覧台）と地方新聞の 3 か月分

新聞室書庫

業界紙バックナンバーと縮刷版（朝日、毎日、日経）の年代の古いもの

旧住友書庫

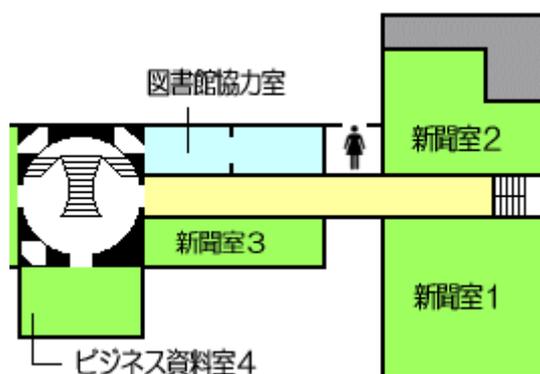
明治・大正・昭和前期の朝日、毎日の新聞原紙

を配置している。

業界新聞は

- (1) ビジネス支援開始前「新聞室」
- (2) タイトル増加により開始時「新聞室」
- (3) 有価証券報告書のマイクロフィルム寄贈、タイトル増加により「新聞室」  
新聞室は、もと「他館目録室」で他図書館の蔵書目録、雑誌記事索引などを  
排架していたが、資料を書庫入れし、新聞室と名称変更。

- (4) 切り取り防止と地方新聞受け入れでスペースがなくなり「新聞室」  
と配置場所を何度か変更してきている。



### 3 新聞原紙の保存について

地方新聞は保管場所の関係もあり、3 ヶ月保存。

五大紙については 1 年保存で広報しているが、実際のところは 1 年半から 2 年置いている。

業界新聞の保存年限は未定だが、現在のところ（平成 16 年度以降受入分については）廃棄は行っていない。

業界新聞の閲覧利用は直近のもの利用頻度が高く過去分は低いが、収集保存している図書館が

少ないため、長期に保存しておきたいが、新聞書庫の収容が限界近く、保存年限を決定の時機が迫っている。提供保存の責任もあり、安易に廃棄もできず、検討課題となっている。

## 4 他の寄贈

### ・バックナンバーの寄贈

寄贈依頼は「直近以降」の送付をお願いしているが、中にはバックナンバーも含めて寄贈する、というところもあり、20年7月に薬粧流通タイムズ社から『薬粧流通タイムズ』の創刊号（昭和57年10月15日）以降が当館に寄贈された。

また、寄贈されている業界紙が発行元の事情で廃刊になった場合、バックナンバーを当館に寄贈する、というケースも多い。平成18年度に『化繊ニュース』19年度には『日本薬業新聞』と『日本合成繊維新聞』のバックナンバーがまとめて寄贈された。これらは国立国会図書館未所蔵のものもあり、貴重な資料である。

### ・地方新聞

平成17年12月から、府立文化情報センターが閲覧に供した後の44タイトルが、発行日よりほぼ2週間遅れで当館に送られてくるようになった。タイトル別に表紙を付けて提供している。

### ・有価証券報告書マイクロフィルム

平成18年度に大阪証券取引所から昭和24～平成13年分の寄贈を受け、受入整理後、平成19年6月から新聞室で新聞マイクロフィルムと同様に閲覧に供している。

平成13年9月以降の有価証券報告書はEDINET(金融庁) <http://info.edinet-fsa.go.jp/> で閲覧可能である。

## 5 所蔵情報等の管理

新聞室で扱う資料の形態は、マイクロフィルム、新聞原紙、新聞縮刷版、図書、雑誌(新聞ダイジェスト)である。

会計的には、新聞原紙が消耗品扱い(製本登録分を除く)、他が備品扱いとなる。

備品扱いの資料は現行の図書館コンピュータシステムで管理されているが、消耗品扱い、特に新聞はシステムになじみにくく対象としていない。今のところ業界新聞の全てが消耗品扱いである。

このため利用者に提供する所蔵情報についてリスト化する必要があるため平成16年度からエクセルを利用し管理していた。これを、平成19年度にアクセスを利用し、「新聞室データベース」を作成した。なお、「新聞データベース」作成、入力には新聞室嘱託職員があたった。

入力項目 全31項目

新聞ID、受入方法、Check(継続中か否か)、分類、タイトル、フリガナ、発行社名、発行社名フリガナ、発行社電話、発行社FAX、発行社URL、内容(解題)、キーワード、発行頻度、発行発売日、受入状況、所蔵期間、所蔵状況(始)、所蔵状況(終)、所蔵巻号(始)、所蔵巻号(終)、発行形態、入力更新日、担当者、備考、本社支社、年間購読料、発行日(簡略)、非公開、開架状況、書庫内配置、頻度、発行日、所蔵状況、発行社名修正、タイトル修正

業界新聞解題作成についてはメールマガジン原稿を流用する形で始めたが、作業量が多く嘱託職員だけで行うには時間がかかり、ここ2年ほど前から、図書館実習の大学生、インターンシップの高校生、府立高校教員の方々の研修メニューに組み込み案文していただいている。

各業界新聞に目を通し、「雑誌新聞総カタログ」等を参考にして丸写しでなく、自分の言葉で記すようお願いしている。皆さん苦勞されるが、日ごろなじみのない世界に触れる事ができてよかったと好評である。

## 6 利用者へのPR

### (1) 紙媒体でのPR

来館利用者、府域図書館にむけ、ビジネス支援サービス開始時(平成16年4月)からB4両面1枚ものチラシ「おおさかふりつ なかのしまとしょかん しんぶんしつ」を随時発行し、平成19年12月からは、これに所蔵期間巻号、新聞データベースの説明等をつけ小冊子全16頁として発行さらに、平成20年10月からは業界新聞に解題をつけ小冊子全40頁を発行している。

### (2) WebでのPR

#### ・ホームページ

新聞関連コンテンツについては何度か再編成し、平成20年10月に「新聞室のページ」として集約した。

<http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/busi/paper.html>

現在のコンテンツは、

#### (所蔵情報)

##### ・主要新聞所蔵詳細

五大紙等、主要な新聞の中之島・府立中央両館の所蔵状況

##### ・所蔵新聞一覧

新聞室で所蔵している新聞の50音順リスト

##### ・業界新聞業種別一覧

新聞室で所蔵している業界新聞を分野ごとの一覧

##### ・地方新聞一覧

地方新聞を直近約3か月分所蔵。ただし、発行から2週間遅れの受入れ。

#### (説明、リンク)

##### ・有価証券報告書の閲覧について

##### ・新聞記事を検索する(日刊紙編)(ビジネス調査ガイド)

で構成されている。

##### ・国立国会図書館 全国新聞総合目録データベース

当館所蔵新聞データを随時提供している。

<http://sinbun.ndl.go.jp/>

### (3) メールマガジン

中之島図書館メールマガジン2006/12/12第35号から「業界新聞通信」として隔号に、

各業界新聞の内容、所蔵を紹介している。

## 7 業界新聞について

- ・できるだけ多分野、同分野であれば複数、資料を集めるように心がけている。  
( 寄贈依頼を行っている )

出版 国際・海外 防災・防犯 行政 不動産・住宅 経済 流通・商業 金融 保険  
税務・経理 消費者 高齢者 福祉 教育 医事・医療 医療機器 健康産業 薬品・薬局  
エネルギー 土木・建築 リサイクル 環境 水道 リフォーム 空調 工業・機械  
自動車・バイク 電気 金属産業 塗料 合成樹脂・ゴム 化粧品・日用雑貨 文具・事務機  
家具・建具・寝具 靴 紙・パルプ 繊維 クリーニング 食品産業 パン・菓子 酒類 服飾  
理容・美容 農業 畜産 ペット産業 林業 水産 広告 包装 証券 貿易 交通  
物流・輸送 航空 観光・旅行 情報・通信 放送・映像 印刷 時計・貴金属・喫煙具  
玩具・スポーツ などが、現在継続中の業界新聞ジャンル

「ビジネス支援」を掲げているが自然科学、技術・工学についての専門的な図書がほとんどない。  
そのためこの分野の質問、資料要求には府立中央からの取寄せ、他図書館への紹介での対応が多いが、業界新聞を紹介するケースも多い。

- ・利用が定着し、定期的に来られる利用者もある。  
綴じ込みが遅れると確認、問合せされるケースもある。
- ・ 業界動向を調べる場合多くの方が、「業種別審査事典」「日本マーケットシェア事典」「業界動向」「全国企業あれこれランキング」などの図書にあたられるケースが多い、相談窓口ではこれに、所蔵の雑誌(開架雑誌 436 タイトル)、業界新聞も併せてあたられる事を薦めている。  
就職活動中の学生さんには、社史、CSRと併せての業界新聞利用を薦めている。
- ・ 業界新聞を多数受け入れる様になって、気づいたのが掲載される出版情報のユニークさである。  
市販の出版情報は他の媒体でも見られるが、非売品、特に関係業界の資料情報も記事として取り上げられている。これらの出版情報は今まで知る手段がなかなかなかった。平成 20 年 1 月から、新聞室外の嘱託職員の作業として寄贈依頼候補としてのリスト化をおこなっている。リストを寄贈担当職員がチェックし、これを参考に、寄贈依頼を行い、成果も上がっている。

## 8 終わりに

明治 37 年の府立図書館創立以来、表現こそ違っても、当館はビジネス支援サービスを行ってきたことは、たびたび採り上げられた、明治以降の新聞記事を見てもよくわかる。

「大阪の実業家は読書を好む」という見出しで

...大阪特有の閲覧者ともいふべきは銀行会社員なり彼等は執務中不圖其仕事に就き行詰りたる際には早速俵を飛ばせて図書館に駆け付け斯く斯くの書物が閲覧し度しと館員に申出で...用を済まし終れば急遽己が会社銀行に帰り行く有様は東京にて一寸見られぬ處なり...

(『報知新聞』明治44年6月2日)

そんな伝統のある中之島図書館が全国的にも知られているせいか、業界新聞の寄贈依頼にも快く「寄贈します」という返事をいただく事が多く、あらためて先輩達の努力と継続の力を思い知る。

寄贈依頼した際に「当方も中之島の業界新聞コーナーをよく利用しています」という声を聞いたり、来館した利用者に「当社の新聞が並んでいませんが、送らしましょうか」という申し出を受けたり、近辺の業界新聞社の本社・支社の人にも利用されているようだ。これだけ揃ってくると、利用者からの期待も大きくなり、「カメラ関係の業界新聞はないですか?」「食肉・ハム・ソーセージ関係は?」等々の要望が出てきて、早速、寄贈依頼をするという事になり、利用者に育てられている事を実感している。ビジネス支援開始後5年、たくさんの人の協力によって特徴ある資料群をもった新聞室の形ができつつある、利用者これら資料群の所蔵情報を伝える手段については整備出来つつある。

今後はこの資料群をどう使って行くか、どう使ってもらうのかが問われる事になる。業界新聞を中心とした、セミナー、講座などのイベントなども実施したいと思いながらまだできていない。これらについても今後考えて行きたい。

サブプライムショック、原油高騰、円高、株価低迷と寄贈協力いただいている新聞各社、利用者にも厳しい時代になって来ている、私たちの新聞室が有効に使われ時代を乗り切れる手助けになれば幸いである。

2008.11.15 撮影 新聞各室



新聞室



業界新聞



新聞室



新聞室



新聞室